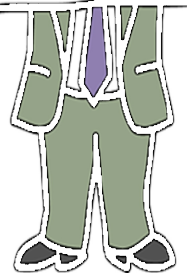


# 吉田喜一 教授の ものづくり 工学便り



## 親子で作って遊ぼう講座 指導学生の感想

都立産業技術高専名誉教授 吉田喜一  
北区教育委員会から依頼され、7月に親子で作ってあそぼう講座を開催しました。100人以上が参加しました。戻る紙ヒコキ、紙プーマラン、プーマラン紙コップ、プーマラン紙トンボ、紙のフライングリングを自分で作って遊んでいただきました。前号で子どもたちと保護者の感想を紹介しました。今回は指導した1年生女子の感想を紹介します。3月まで中学生だった女子学生が、子どもたちや親にものづくりを教えることで成長していきます。

前日、先生のご指導のおかげさまで当日失敗はなく、無事終わることができました。自分も講座の内容はおもしろいと思います。しかし、手順を上手く説明できるか、まちがったことを教えてしまわないか、飛ばし方が下手で見本にならないのでは、と不安もありましたが、親子みなさんの笑顔で忘れてしまいました。

一番に残っているのは、小さい子供たちに「ありがとう」と言ってもらえた時の嬉しさです。自分が教える側の人になることもなかなかないので、教えたことで理解してもらい、感謝され教えることの楽しさが分かりました。また教えるのも子だけ

なく、お父さん方へもしました。お父さん子どものお手本になるためにも真剣に話を聞いてくださいました。説明は完璧ではありませんが、お力になれたと思います。実際に飛ばしてみるときも、困っている親子の方には積極的に声をかけられました。そして飛ばし方のコツをつかめた子どもさんもいます。でもD君ほど上手に教えることはできませんでした。

先生のおっしゃっていたとおり、人に教えることは容易なことではなくとも難しいと感じました。そしてこの体験から自分に教えてくださる先生、先輩方をすごく大きく思います。自分は初対面の人に対しての説明は困惑ばかりでした。しかし、「どこから説明をどのようにすればよいか」と考えながらもすすめる内に、自分が相手に何を伝えたいのかの要点が整い、よりよい教え方に近づけた気がします。逆に教えられたような感じでした。

このような機会はなかなかないものなので、自分にとってもプラスになることをたくさん学ばせていただきました。これからの高専生活にも、またこのような機会の時でも、ぜひ活かしていきたいです。より率先して動き、人に求められる人になりたいです。

### 【南千住一口話 第9回】

第二弾 南千住の世相史

講師 杉山六郎氏

日時 10月27日(日)午後7時開場

場所 南千住駅前ふれあい館2F

会費 三百円 お申込 & Fax (3807) 3486

携帯 090 (2657) 0300 鬼塚

## お盆休み、福島を訪ねる 福島市ほか



消費生活アドバイザー

今月は、前回の続きをお話しします。  
津波の痕跡が今も生々しい南相馬市小高区を後にし、国道6号(陸前浜街道)を北へ進んで、「道の駅そうま」に立ち寄りしました。

ここでは、国土交通省・東北地方整備局の「震災伝承コーナー」の展示物(津波で曲がった道路標識や、小学校の机、数々の写真パネル等)をじっくり見てきました。

ここから進路を西に取り、阿武隈高地を超える国道を進んで、福島市を目指します。人家も疎らな山間部に入り、カーブが続く上り坂を慎重に運転していると、山の中腹に「東北中央自動車道」の建設現場が姿を現しました。今、走っている国道に代わって、県の中央部(中なか通)と太平洋岸(浜(はま)通)とを結ぶ新たな動脈に位置づけられ、震災復興の基盤として開通が期待されているものです。道が平らになり、道路脇の標識が相馬市から伊達市に入ったことを示し、さらに進んで行くと、今度は一転して下り坂の連続となります。やがて空が開け、福島盆地に入ると、道の周囲には特産の桃がたわわに実っている果物畑が広がります。

盆地の端から端まで移動し、すっかり日も暮れた午後7時に福島市・飯坂温泉に着きました。今夜は、建物こそ質素なもの、家族経営の温かいもてなしと、食事の美味しさが旅行サイトで評判の「旅館入舟」に泊まります。早速、源泉掛け流しの温泉(飯坂らし

く、少し熱め)に入ってサッパリした後に、去年泊まった時には見かけなかった宿の息子さんが、部屋に夕食を運んでくれました。話を伺うと、横浜中華街のレストランや、地元結婚式場で勤めてから、ご両親を気遣って宿を引き継ぐために今年戻って来られたそうで、頼もしい限りです。

夜はぐっすり眠って、翌朝、起きがけに温泉に入るとシャキッとしました。今日は、市のシンボル・信天山(しのぶやま)のふもとにある福島県立美術館を訪ねてから、東京に戻ります。米国カリフォルニアのブライスコレクションを中心とした、江戸絵画の特別展が目当てです。広々とした館内で、伊藤若冲、長沢芦雪、円山応挙などの名画を心ゆくまで鑑賞できました。絵の持つ迫力や、色彩の対比、構図の面白さなど、とても言葉には言い表せません。「美」と「生命力」をテーマとし、震災の慰めとして「未来を担う子どもたちの心の支えになることを願う」という開催趣旨にも納得の、すばらしい美術展でした。

メガネのサトウ

南千住5丁目43の13【コッ通り】

03(3806)4930

休業日のごあんない【不定休です】

9月: 25(水)

10月: 1・22(火)、27(日)、

営業時間のご案内

平日(月~金): AM 9時30分~PM 7時

10月16日(水)は、PM 2時からの営業とさせていただきます。(新製品展示会視察のため)

土・日: AM 10時30分~PM 6時

